

◆手法：アウトリーチ「アウトリーチの意義」
近年、住民が舞台に立ったり、ボランティアとして運営を支えたり、ワークショップに参加したりと、観客でも施設の借り手でもない、文化ホールと住民の新しい関係が生まれています。鑑賞事業などは、文化ホール側

としては住民が自らの意志で参加する「待ち」の姿勢であるのに対し、アウトリーチは文化ホール側の意志で対象を決めることができ、「攻め」の姿勢で取り組めることが最大の特徴。普段文化ホールを利用しない人でも、その存在意義を認識してくれるようになる可能性があります。

文化の秋、到来!! アピオス・みの～れがアウトリーチラッシュ!!

※アウトリーチ「もともと「外に手を伸ばす」あるいは「(地域への)奉仕・援助・福祉活動」「(公的機関や奉仕団体の)出張サービス」という意味。アーティストを地域や学校に派遣し、ワークショップやミニコンサートを行うのが文化ホールのアウトリーチ活動。



▲今年の小美玉さくらフェスティバルで上演した演劇ファミリー Myu オリジナルミュージカル『かぜにうたえば』のアウトリーチ版を主人公の清水橋村の故郷である橋小学校にて!! (2013.11.2)



▲「小美玉発! スター☆なりきりミニミニ歌謡ショー」と題して過去の出演者である川名咲子さんと真家栄子さんが出場者募集のPRのために大曲区の三世代交流へ!! (2013.10.27)



▲津軽三味線ユニット「あんみ通」のお二人が玉里東小学区の白雲荘にてアウトリーチ!! めったに触れない三味線に触れられて、体験した方もご満悦の様子!! (2013.10.26)



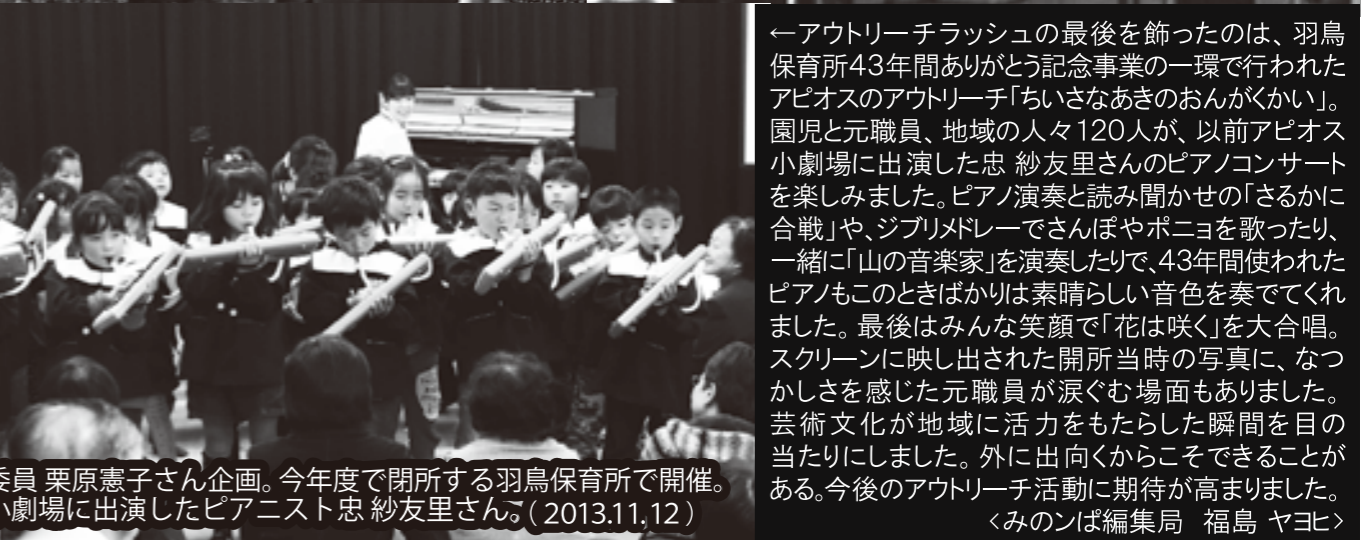
▲みの～れ住民楽団「Jolly forest Jazz orchestra」が野田小学校&橋小学校にて!! (2013.10.27 & 11.2)



▲アピオス活性化委員 大塚好蔵さん企画。山野区では初めてのアウトリーチ。出演はサクソ奏者の久保浩さん。この企画の主となり動いていたのが、区の体育部!! 初めての体験で、体育部長さんも緊張しながらあいさつしてました。(2013.10.20)



▲アピオス活性化委員 栗原憲子さん企画。今年度で閉所する羽鳥保育所で開催。出演はアピオス小劇場に出演したピアニスト 忠 紗友里さん。(2013.11.12)



←アウトリーチラッシュの最後を飾ったのは、羽鳥保育所43年間ありがとう記念事業の一環で行われたアピオスのアウトリーチ「ちいさなあきのおんがくかい」。園児と元職員、地域の人々120人が、以前アピオス小劇場に出演した忠 紗友里さんのピアノコンサートを楽しみました。ピアノ演奏と読み聞かせの「さるかに合戦」や、ジブリメドレーでさんぽやポニョを歌ったり、一緒に「山の音楽家」を演奏したりで、43年間使われたピアノもこのときばかりは素晴らしい音色を奏でくれました。最後はみんな笑顔で「花は咲く」を大合唱。スクリーンに映し出された開所当時の写真に、なつかしさを感じた元職員が涙ぐむ場面もありました。芸術文化が地域に活力をもたらした瞬間を目の当たりにしました。外に出向くからこそできることがある。今後のアウトリーチ活動に期待が高まりました。
くみのんば編集局 福島 ヤヨヒ